

地域の公共施設のこれからを考えるワークショップ（坂井輪地域）

第3回ワークショップの結果概要（案）

2019年1月26日（土） 坂井輪健康センター

1 評価項目について

- 対策案は、高齢者や子どものための施設のことは考えられているが、“働いている世代の交流”の視点は足りないと感じている。地域のお祭りやイベントも少なくなり、互いが知り合う機会も減ってしまっている中で、施設整備だけでなく、地域主体となって誰もが参加できる場をつくり、安心・安全の確保やコミュニティ形成にもつなげたい。イベント等を実施する際には、市にもぜひ音頭をとってもらいたい。
- 評価項目の“①コスト”については、建設費のみの計算で、利用者1人にかかるコストなどが考慮された評価ではないのではないか。単純に維持・更新費用がかかってしまうので、施設を閉鎖するという方針に思ってしまう。
- 評価項目の“④地域の活性化、多世代共生・交流”で、A、B、C案が○の判定になっているが、余裕教室が夜間や休日でも利用できるシステムやルールをみんなで考えれば、◎にできるのではないかと思う。

2 対策案について**(1) 児童館****■全案共通**

- 建設当初の児童館の機能・役割について、現在は、別の施設が担っている可能性がある。利用者の意見を聞くなどしてニーズ調査等を実施し、年齢ごとに必要な機能やサービスを整理した上で、まずは市として児童館の整備方針を定めてほしい。
- 児童館については、民間に任せても良い機能と行政が担うべき機能があると思う。例えば、イベント系については民間に任せることも可能だとは思いますが、子育ての悩みを相談するような機能については行政が担った方が相談者は相談しやすいということもあるだろう。市が責任をもって、これまでの児童館としての機能を整理し、今の時代に合った児童館の運営のあり方を検討してほしい。
- 安定的な運営を考えると、民間に任せるよりも市も関与することができる第三セクター方式による運営が望ましいのではないか。
- 現施設の維持費等がかかるという理由だけで他施設への移転、あるいは機能移転などを考えているのではないか。坂井輪地域の利用者数や一人当たりのコストはどうなっているのか。そうしたデータがないと、案の検討もできない。

- 坂井輪地域内の子どもたちが歩いていける距離に、いつでも利用できる児童館があるようにしたい。
- 児童館利用者の意見を聞くと、地域外利用者も駐車場さえあれば、関心のあるプログラムを実施している場所まで行くようである。今の場所に存続しておく必然性はなさそうだ。閉校した学校等もあるので、そのような建物の利活用を検討してはどうか。
- 児童館は、坂井輪地域内に必要なのか、西区内にあれば良いのか。市の意向、方針を検討した上で、議論すべきことだと思う。
- 児童館が本当に坂井輪地域内に必要だと結論が出れば、西区の誰もが使いやすい機能、規模の施設を新しくつくるということも考えられるのではないかな。そうすることが、坂井輪地域の魅力向上になると思う。
- 様々な年代の子どもたちや、その親たちの居場所をしっかりとつくるのが大切であり、そのことが坂井輪地域の魅力にもつながっていくと思う。児童館がなくなることで、そのような親子の居場所がなくならないようにしてほしい。そのためにはお金をかけてでも良いものをつくる必要があるかもしれない。
- 働いている親の都合などで、ひまわりクラブ、児童館と遊び場を制限するのではなく、子どもの視点で安全・安心してのびのびと遊べる環境づくりをまず考えてほしい。
- 児童館は、平日利用が少ない傾向にあるので、平日は地域の高齢者の居場所づくりの場として開放するなど、他の機能との組み合わせも検討できると思う。

■A案、B案

- ひまわりクラブと児童館の併設は、利用者にとっては有料と無料の違いから、無料の児童館に流れてしまう恐れがある。現実的には併設では運用が難しいのではないかな。

■C案、D案

- 「公民館のフリースペースで児童の居場所を確保する」とあるが、誰が責任を持って管理運営することになるのか、人員を配置できるのかなどは疑問がある。

■D案

- D案は児童館が民営化され子育て支援センターになっている。子育ての相談もできるのだが、その際、運営している企業の話がそれとなくされたりするようで、民間色が強いという印象を与えてしまい、公共性がないと相談しにくいと感じる方もいるだろう。児童館機能の中には、公共が担うことに意味がある内容もあると思う。

■D案、E案

- 子育て中の保護者、お母さんたちは、関心あるイベントは自ら調べ、各施設の様々なイベントに参加しているし、各施設や各団体も様々なイベントを実施している。そのため、これまで児童館で取り組んでいたイベントも、他の施設に機能分散したり、民営化でフォローできるだろう。但し、本来の児童館の役割は、子育てに悩んでいる保護者の相談に乗り、支援するなどの役割も担っている。そのような育児について専門的な相談をしたい時、公共の施設であること、市が運営をしているということは、重要だと思う。
- 児童の居場所等の児童館機能が公民館に入るのは、多世代交流が促進される点で評価できる。

■C案、D案、E案

- 児童館が新通小学校に移転しないのは、坂井輪地域外の子どもも通いやすいので評価できる。

■E案

- 健康センターに児童館機能があるのは良い。区役所隣にあるため健康診断時にも預けられ、保健師もいるので相談もしやすい。また、区役所を訪れる人が利用できるのも、坂井輪地域だけでなく西区民が利用しやすい施設になるのではないか。

(2) 保育園

■全案共通

- 坂井保育園は適地に移転し民営化する案があるが、保育園を移転しなくても、交通安全など現状の課題を解決する方法を探れないか。また、公設公営の方が保育の質の点で安心できると思う。

■A案、D案

- 民営化したほうが市の運営費負担がなくなるし、企業努力もする。制約も少なくなることで休日利用の可能性も広がり、サービスも充実することが期待できる。基本的には賛成である。
- 民営化には賛成だが、坂井輪地域で運営をしようと手を挙げる事業者がいるのかが見えないために不安である。
- 民営化することで、利用料金以外に教材費や制服代など追加で費用負担が発生しないか心配である。
- 民営化することで採算が合わないとすぐなくしてしまうのではないかとか、経営者の意向によって教育方針に偏りが生じてしまうのではないかと等の懸念がある。

る。また、将来人口が増え待機児童が出た場合にもきちんと対応をしてほしい。安心感がほしいので、市は民営化に伴う将来的なリスクも見据えて対応するようしてほしい。

■C 案

- ・建物を 2 階建てにしたとしても敷地が狭いために駐車場や園庭が不十分だと思うのと、保育園前の通行人にプールが丸見えになってしまうことも防犯面で不安である。保育園を現在の場所に建設するのは賛同できない。

■E 案

- ・保育園を民営化することでコストも削減できて更に良いと思う。

(3) 新通小学校の余裕教室

■全案共通

- ・余裕教室にひまわりクラブ第 1 を入れるという方針は理解できる。ただし新通小学校には駐車スペースがない。例えば、現在借地であるひまわりクラブ第 2、第 3 の敷地すべてを解消するのではなく、一部は借りたままにして駐車場として残すのはどうか。短時間でも良いので保護者の自動車送迎時の対策が必要である。

■A 案、B 案、C 案

- ・余裕教室を学校開放として地域利用するということが、校舎に地域利用者の出入口を設けられるのだろうか。防犯対策として、学校関係と地域利用の出入口は別にしてほしい。
- ・余裕教室を地域利用するとなると、平日利用の音や防犯上の問題、また、土日利用をどのようにしていくのかなど、運営面で課題が出てくるだろう。学校側も抵抗があると思う。地域利用は、同敷地内でも管理は別となるひまわりクラブ第 1 を利用したほうが運営面もスムーズに進むと思う。

(4) 老人憩の家西川荘

■全案共通

- ・今は多世代共生の時代である。老人憩の家の役割は、一段落したと思うので、市の方針通りで良いだろう。
- ・西川荘については、高齢者に配慮しながら今後のあり方を検討していると思うが、坂井輪地域全体で見ると高齢者の割合も少なく利用者が減少しているのであれば、これ以上存続しなくても良いのではないかと。

- 西川荘は高齢者の交流の場としての機能を既存施設で分散するとの方針だが、高齢者が歩徒や自転車で移動できる範囲で交流ができるよう、現在の場所に建てられている。遠くに行ってしまうのではないかと心配である。
- 西川荘は、入浴機能が強調されているように感じている。本来の機能について周知した方が良い。
- 西川荘のお風呂は、憩の家の交流の場としての機能の一つとの説明があったが、単身高齢者や年金生活者等にとっては、身近な場所にある入浴機能として重要だと思う。
- 廃止の根拠となる整備方針のデータが、平成 18 年のもので 10 年以上経過している。最新の利用状況等を把握した上で存続の有無を検討してほしい。
- 西川荘まで歩いて利用できる方は必要性を感じているとの意見があるが、歩いて行けない人たちにとっては、思うように交流機能や入浴機能が利用できない。不便を感じる層が少しでも減るように、それらの機能の分散やアクセス面を担保するなど、根本的な見直しは必要だと思う。
- 平成 18 年度の「新潟市老人憩の家運営事業検討委員会」で、「老人専用の施設整備から地域住民による地域づくりの拠点施設整備へ転換すべき」と提言がされている。一方で、対策案では既存の教育施設や子育て施設にも高齢者の交流の場を確保することになっており、運営を市が担当するのか、地域が担当するのか曖昧な状態である。自治会でも高齢者の居場所づくりを行っている。どこが交流機能を担うのか明記してほしい。
- 老人憩の家について高齢者への配慮や交流の場としての機能について検討するだけでなく、今後は元気な高齢者が活躍できる場をつくっていく視点も必要だろう。

(5) ひまわりクラブ第 1 (移転後の活用)

■D 案、E 案

- 坂井輪地域は自治会館のない自治会がある。現在のひまわりクラブ第 1 を自治会が利用できるようにし、さらに、地域のサークル活動や子どもたちのイベント等に利用できるようにしたらどうか。学校に通う児童と地域との交流の可能性も広がる。ひまわりクラブ第 1 を有効活用することで地域の活性化や多世代共生・交流にもつながると思う。
- 現在のひまわりクラブ第 1 を地域利用できるようにした場合、利用者の駐車場がない。特に自治会の総会時などは、多くの人々が施設に来ることから、駐車スペースの確保が必要である。

(6) その他

■A案、D案について

- コスト面で考えれば、A案かD案が良いと思う。ただ、様々な機能が複合化したときの状況がまだイメージできていないので、はたして便利になるのかという点は疑問である。

■D案について

- 評価案を参考にするとD案が良いと思うが、コストは削減できても子どもたちを大切にしたい案ではないような気がしている。コスト削減の視点だけではなく、新たな施設をつくるということも検討しても良いのではないかと。

■A案、B案、C案

- A案、B案、C案の長期的取組の建物の長寿命化は取り消す必要はないのではないかと。対策案に記されている公共施設については、長寿命化などの対策は何かしら必要になるので、そのことがわかるよう、表現は残した方がよい。

■新たな案

- D案を基本にしつつ、付帯事項として、児童館については機能と役割を整理した上で、一部を民営化する程度の運営のあり方を検討する。また、新通小の余裕教室をひまわりクラブとして活用する際の対策、さらに現在のひまわりクラブ第1を学校開放として地域利用に活用する際の対策として、駐車スペースを検討してほしい。
- 現在の坂井輪公民館は利用者が多く部屋の予約が取れない上に駐車場も埋まってしまう。また、児童館の駐車場の問題も解決するためにも、西川荘のような高齢者の交流機能、児童館のような子育て機能、公民館のような集会機能などが集約された多世代利用が可能な大規模な複合施設を建設することも良いのではないかと。
- 総合するとE案にプラスして、保育園は民間保育園を誘致する案が良いと思う。

■その他

- 社会福祉協議会は、公的な組織として認知され安心感が持てる。坂井東ひまわりクラブは、これまで社会福祉協議会が運営を行っていたが、次年度から他団体が運営をすることになっている。別の区では学校内にひまわりクラブを設けていたが、民間団体がひまわりクラブを運営する時にその民間団体が学校の教室を利用することを断られたケースもあるようだ。運営主体が変わることで、坂井輪でも学校の余裕教室を使えなくなる可能性もあるのではないかと。

- どの対策案もコスト削減ばかりが先行し、子どもや高齢者にやさしくないと思う。子ども、高齢者が住みやすいと感じる魅力づくりやコンセプトづくりをしていきたい。
- 各評価項目の判定が◎となる案を作ることができるのではないか。その案を実行するために出てくる具体的な課題を一つひとつ解決していただきたい。

3 付帯事項について

【民間活用を進める上での留意点】

- コスト重視で民間活用の良い点だけを取り上げ、方針を作っているのではないかと感じる。民営化を進めるのであれば、民間活用による欠点や課題もきちんと整理した上で案を検討してほしい。
- 民間活用はコスト削減やサービス向上の点ではメリットがある一方で、継続性が担保できないと保育園や児童館にとっては施設運営ができなくなる。市は運営をバックアップし、リスクをあらかじめ予測したうえで、民間活用を考えてほしい。

【民間保育園について】

- 保育園を民営化することで採算が合わなくなるとすぐ潰したり、入園料等を高くするなどして、弱い立場の市民が切り捨てられることがないようにしてほしい。市は、市民を守り、保育園を監督するということを大前提にして民営化を進めてほしい。
- 民営化することで教育方針・理念に偏りが出ないように、市は誘致する際、市の方針を踏まえた上で保育園の教育方針や経営方針等を十分審査してほしい。また、誘致後も定期的に監督をしてほしい。
- 民間保育園を誘致するのであれば、整備にあわせて広く駐車場を確保してもらいたい。

【児童館や児童館機能のあり方】

- 児童館は行き場のない親子がいつでも使えるように、開館時間や土・日・祝日、長期休みにも対応できることを前提にしてほしい。

【施設利用について】

- 坂井輪地域内で施設利用したい人が相談できるような窓口等の仕組みが必要になると思う。学校で地域利用ができるスペース、公民館、健康センターなどで利用できる部屋はあっても、管理者や利用できる条件も異なってくるだ

ろう。相談窓口がないと、何かをやりたい方、例えば、地域の高齢者の居場所づくりをしたい人がどこなら定期的に場所が空いているか把握できずに困ってしまう。

- 学校の余裕教室を地域利用できるようにするのであれば、利用条件を設定してもらいたい。体育館の地域開放を参考にできるだろう。

【高齢者の交流機能について】

- 西川荘は老人クラブが指定管理で運営を行っているが、小針地域の老人憩の家は市が直営で運営している。今後、各地で老人クラブが運営することが難しくなり、坂井輪地域も同様の問題が起きるであろう。今後の高齢者の交流機能を支える運営体制を考える必要がある。

【検討の進め方など】

- 市民へ新潟市全体の公共施設の検討スケジュールを示してほしい。その際、各公共施設の老朽化や整備予定などの状況も公開し、なぜ坂井輪地域が先に取り組むことになったのかがわかるようにしてほしい。
- 各中学校区の財産経営計画や、今後、公共施設の再編についてどのように進めるのかの方針を示してほしい。その際、もう少し市民にわかるように説明してほしい。
- 西区としての方向性がない中で坂井輪地域の検討するのは違和感がある。西区としてどのような機能がどの程度の規模で必要かを検討した上で、坂井輪地域の施設構成や機能のあり方や配置を考えないと場当たりのになってしまう。
- コスト削減の視点だけでなく、多世代から意見を聴き、坂井輪地域にとってどのような施設が必要なのかを考えてほしい。
- 西川荘の利用者の意見を聞く前に廃止になるといった話がでると利用者は戸惑ってしまう。また、児童館は坂井輪地域外の方も利用している。そのようなことも踏まえると対象施設の利用者の意見を聞いた上で、ワークショップを進めた方がよい。
- 代替案が示されていないなかで、西川荘が廃止になる話が出てしまっているために利用者が不安に感じている。すぐになくなるということではないことを市に周知してもらいたい。
- 西川荘の主たる目的が交流機能ということはわかるが、付加価値で付けた入浴機能が地域にとって重要なものとなっている。地域の人が利用している中で、入浴機能を維持できないのであればどのような対応をするのか市は考える必要があると思う。市として検討することを資料4に記載していないのは説明不十分ではないか。

【高齢者の生きがいつくり】

- ・高齢者に配慮することも大切だが、高齢者を元気づけるための活躍の場の提供など、どのように生きがいつくりにつなげていくのかを考えていきたい。高齢者が培ってきた経験を地域へ還元するような場をつくれないうだろうか。

【質問・確認事項】

- ・児童館の利用者の範囲を近隣としているが、必ずしも徒歩圏などの利用に限ったことではないはずだ。今回市が想定している近隣の範囲をどう考えているのか疑問だ。
 - （市からの回答）利用者の範囲については、基本的には施設近隣の方を想定していますが、市の施設でするのでどなたでもご利用できる施設として考えており、現時点では利用にあたっての範囲を設定することは検討していません。（資料4より）
- ・坂井輪児童館の維持費は、年間にどれくらいかかるのか。
 - （市からの回答）平成28年度の市の支出：14,108千円
- ・保育園を民営化したときの、削減できるコストはいくらなのか。
 - （市からの回答）20年間で18.8億円の削減となる。（参考資料1より）
- ・坂井輪地域の保育園は、どのようなスケジュールで民営化を進めるのか。
- ・ワークショップで意見を選ぶわけではないと思うが、どのように案を選んでいくのか。
 - （市からの回答）いろいろな関係者の意見を踏まえて、総合的に市が判断する。
- ・地域実行計画をどのようにまとめるのかがイメージできない。
 - （市からの回答）その場で改めて説明あり。

【その他】

- ・私の最終案として、全ての施設を統一し、坂井輪地域らしさを。